



平成29年12月22日

## ファジウオーカープロジェクト 試合観戦時における自家用車利用を削減！！

### 【2017 シーズンプロジェクト効果検証の調査速報】

岡山大学、国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブの産官学が中心となり進めている「人・地域・地球にやさしいアクセスのためのファジアーノプロジェクト実行委員会（ファジウオーカープロジェクト）」は、今年8～9月に、試合観戦者の県総合グラウンドへのアクセスを、自家用車から公共交通、自転車、徒歩等に転換してもらうための施策を実施し、10月にその効果を検証するためのアンケート調査を実施しました。

調査の結果、自家用車で来訪者のうち、本プロジェクト認知者による転換割合は10%（全体の自家用車利用者の7%に相当）になることが分かりました。これら調査結果などを参考に、来シーズン以降のプロジェクト展開を検討していきます。

#### <概要>

岡山県総合グラウンド周辺の国道53号は慢性的な交通渋滞に悩まされています。また、Jリーグ・ファジアーノ岡山戦が開催されると1万人近いサポーターが集まり、賑わいが創出される一方で、さらなる渋滞等の交通問題を引き起こす要因の1つにもなっています。

それらの問題の解決のために、ファジウオーカープロジェクト（委員長：岡山大学大学院環境生命科学研究科氏原岳人准教授）を2016年7月に立ち上げ、これまで検討してきました。本学からは氏原岳人研究室（大学院環境生命科学研究科）、高岡敦史研究室（大学院教育学研究科）が参画しています。ファジウオーカープロジェクトでは、今年8～9月に県総合グラウンドまでのアクセスを自家用車から公共交通・自転車・徒歩等に自発的に転換してもらうための11施策「Project11」を展開。今年10月には、その効果を検証するためのアンケート調査（10月1日のホームゲーム時に総合グラウンド周辺にて無作為に抽出した試合観戦者506人を対象）を実施しました。主な結果は以下の通りです。

- 1) 自家用車の来訪者のうち、本プロジェクト認知者における転換割合は10%（全体の自家用車利用者の7%に相当）でした。※本プロジェクトの認知度は全体の72%。
- 2) 転換後の交通手段は、「鉄道」が53%、「自転車」が37%。転換者の89%が今後も継続してその手段を利用すると回答しました。
- 3) 転換のきっかけは、「行動プラン法によるワンショット TFP\*」が33%と最も高く、ついで「マスメディア」が22%でした。
- 4) 転換者は、サポーター歴の長い方や岡山駅西口周辺へ（試合観戦時に）立ち寄ることが多い方の割合が相対的に高くなっていました。



## PRESS RELEASE

### <今後の取り組み>

今シーズンの調査結果や岡山国道事務所の渋滞調査などの結果を参考にして、来シーズンに向けた取り組みを本実行委員会にて検討します。

### <その他>

本取り組みは、岡山大学と国土交通省中国地方整備局との包括的連携・協力に関する協定書に基づき実施されています。

### <補足・用語説明>

行動プラン法によるワンショット TFP :

総合グラウンド周辺まで自家用車で来場する人を対象に、アンケート調査で「もし自家用車以外の交通手段で来訪される場合は、どのような方法がありますか?」と問い、その行動プランを考えてもらう方法。

### <お問い合わせ>

岡山大学大学院環境生命科学研究科

准教授 氏原 岳人

(電話番号) 086-251-8850

(FAX番号) 086-251-8850